

# ストリングの基礎知識

From テニサポ



知っているようで、あまり知られていないストリングのこと。このコーナーでは、読者から寄せられた素朴な疑問を、プロのストリンガーに答えてもらいました。皆さんのテニスライフの向上に役立ててください！

解説—鈴木貴也(テニスサポートセンター三鷹店)  
プロやアマを問わず、常に最高のクオリティを提供することを心掛ける。ストリンガー歴8年。「なんでも相談してください」と語る。  
写真—テニスサポートセンター

## 【今月のお題】ハイブリッドの特性と、本物の張りを体験する方法

### 縦糸をベースに考える

最初にお聞きしたいのは、現在使っているストリングの種類です。そのストリングから組み合わせを考えていきます。

最初にハイブリッドを試したい場合は、今張っているストリングを使い、よりボールを飛ばしたい、より打球感をしっかりさせたいなど、求めている感覚の糸を縦糸に張ることから始められてはいかがでしょうか。ポリストリングを張っていて、もう少し飛びが欲しい場合、ナイロンを縦糸にするなどです。

ハイブリッドとは、違う種類または、違う太さのストリングを縦と横で変えて張ることです。違う2種類のストリングを使うことにより、別々の糸のメリットを生かすことができます。例えば、普段ポリストリング1本で張っている選手が、縦糸はそのままで、横糸にナチュラルなど反発力の良い糸を合わせることにし、ボールの飛びが良くなり、バックハンドのボールもより伸びるようになります。プロの選手が、ポリとナチュラルのハイブリッドを張るのが人気の理由の1つは、ポリ単体で張るよりもパワーが出るため、不利な状況でもパワーのあるボールが打ち返せるからです。逆に普段ナイロンのみを張っている

**Q**

ハイブリッドに挑戦しようと思いますが、どんな組み合わせから始めるべきですか？

(テニス歴7年/高校2年男子)



縦と横で異なるストリングを組合せるハイブリッド。種類が無数にあるだけにストリンガーと相談しながら決めていく

### 様々な組み合わせを楽しんで

数百種類のストリングの中から、2種類のストリングを選ぶことは大変ですが、テニスの楽しみの1つでもあります。ロジャー・フェデラー選手など、プロの選手は、ポリストリングとナチュラルガットのハイブリッドが多いですが、最近では、同じ種類のポリストリングで縦糸1.3mm、横糸1.25mmなど、縦と横で糸の太さを替えてパワーをもたせる選手も増え、よりハイブリッドの選択肢が増えてきました。

ハイブリッドの場合は、スイングの仕方やスイングスピードが違ったり、打球感やボールの飛び、ボールへの引掛かりなどが違い、プレースタイルによって感じ方も変わります。

**Q**

専門店ですトリングを張り替えたいけれど、地域にはありません、良い方法はありませんか？

(テニス歴2年/女性)

### 宅配サービスを利用する

近所に専門店がない場合でも、プロの張りを体験できる方法が2つあります。まず一番お勧めしたい方法は、張り替えの配送サービスです。当店も含め、テニスショップによっては、張り替えの配送サービスを行なっています。当店の場合は、ボールの飛びや耐久性などのストリング

テニスサポートセンター  
関東エリア ¥540  
(送料別)

配送サービス

近所にプロのストリンガーがいるお店がなくとも、宅配サービスを利用すれば「プロの張り」を手軽に体験できる

に關するご相談を直接ストリンガーがお電話でお受けしています。配送するための手間はかかりませんが、プロのストリンガーの張りを確実に体験できる方法の1つです。

2つ目は専門店とはテニスに対する考え方が違いますが、テニスの張り替えを行なっているスポーツショップに頼む方法です。しっかりと確認してほしいのですが、スポーツショップのスタッフにも長年テニスをやっていて、ストリングに詳しいスタッフがいることがあります。もしも、そのようなスタッフがいるショップが近くにあれば、相談をして張ってもらうのも1つの手です。ただし、古いストリングマシンを使っているようなスポーツショップは避けた方がいいと思います。ぜひ、いずれかの方法で本物の張りを体験してみてください。その違いに驚かれると思います。

### ストリング都市伝説

#### 同じ素材で同テンションなら張り上がりの硬さは同じ

嘘です。同じ素材のストリングでも、コーティングの違い、柔らかさで仕上がりの硬さは変わってきます。例えば、最近はやりのポリストリングの表面に、滑りやすいコーティングをしたストリングは、コーティングをしていないストリングに比べ、テンションをかけた時の抵抗が少ないため、テンションがしっかりと出ます。同じ素材で同じテンションであっても、表面がつるつるしたストリングとそうでないストリングでは仕上がりの硬さが違うのです。自分はこのストリングでは、このテンションが合っている、など色々試すのもテニスの楽しみの1つです。